

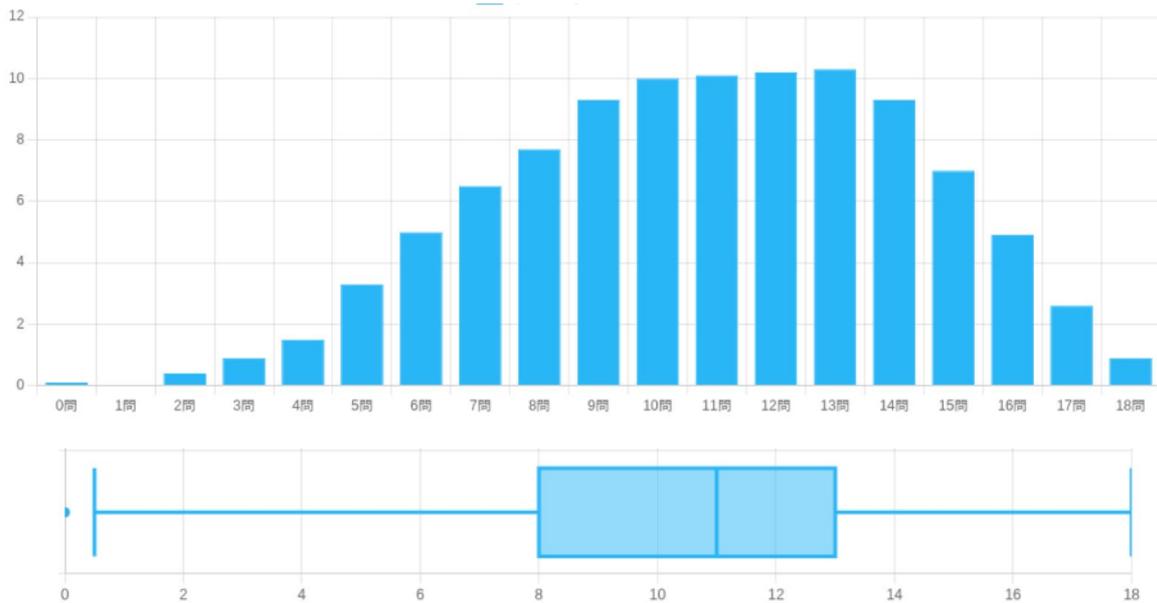
5 英語

中学校第1学年【英語】

(1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	中1	【参考】中2
	知識・技能	5.9 / 10問 (58.9%)	39.6%
	思考・判断・表現	5.0 / 8問 (62.4%)	50.1%
	全 体	10.9 / 18問 (60.5%) スコア 500	8.1 / 18問 (44.8%) スコア 529

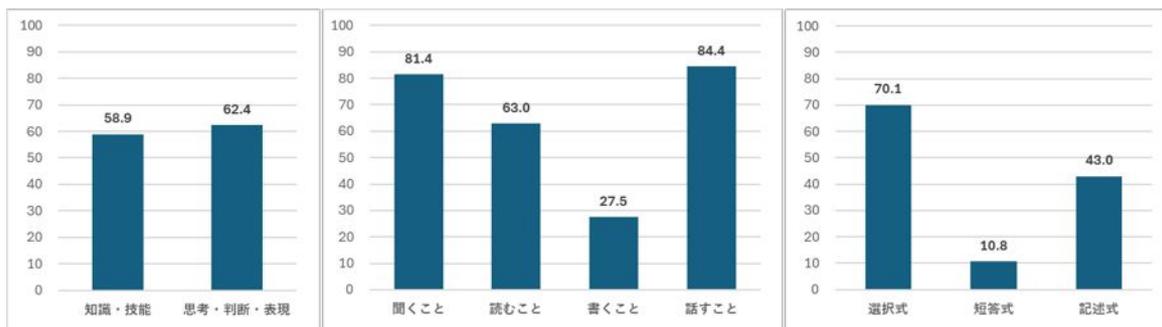
(2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布



	D層	C層	B層	A層	県	自校
県分布	0~7問 (17.7%)	8~10問 (27.0%)	11~12問 (20.3%)	13~18問 (35.0%)	中央値	11.0
自校分布	0~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~18問 (. %)	標準 偏差	3.4

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

中学校 第1学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	18	60.5	
観点	知識・技能	10	58.9	
	思考・判断・表現	8	62.4	
領域	聞くこと	6	81.4	
	読むこと	6	63.0	
	書くこと	5	27.5	
	話すこと	1	84.4	
問題形式	選択式	14	70.1	
	短答式	2	10.8	
	記述式	2	43.0	



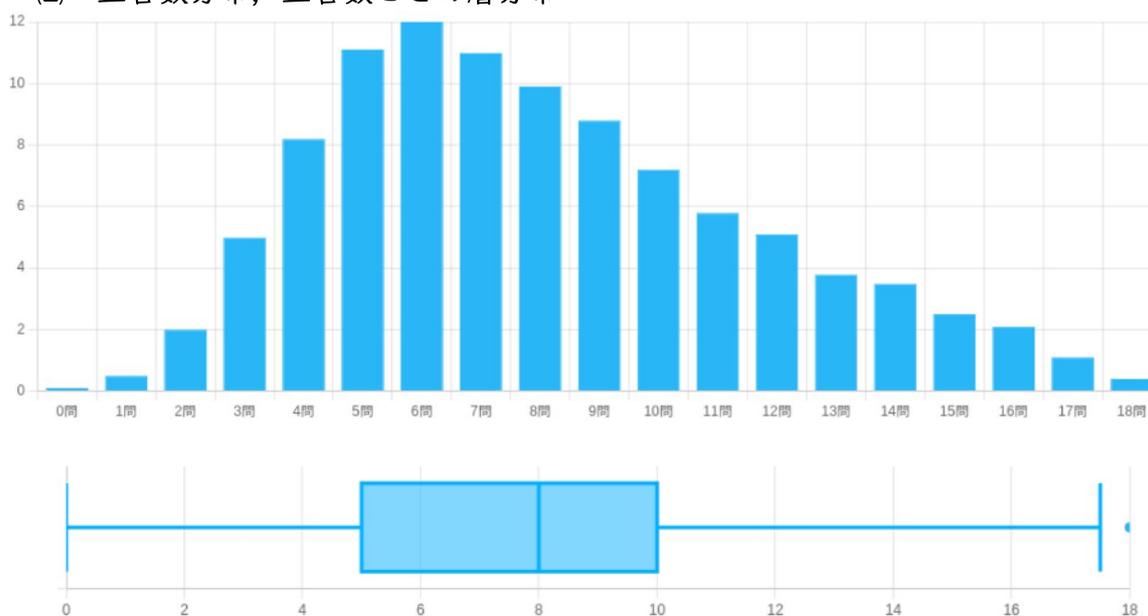
- 中学校第1学年英語の全体正答率は60.5%（10.9／18問）であり，学習内容の基礎的理解は概ね身に付いている状況であると言えます。観点別に見ると，「知識・技能」は58.9%，「思考・判断・表現」は62.4%と，「思考・判断・表現」の方がやや高い結果となっています。
- 中央値は11問（全18問）で，半数以上の生徒が一定の学力を有していることが分かります。また，標準偏差は3.4と比較的コンパクトであり，学力差はあるものの極端な二極化には至っていない状況と考えられます。
- 領域別に見ると，「聞くこと」「話すこと」は非常に高い正答率を示しており，音声によるやり取りに係る学力はある程度身に付いていると考えられます。一方で，「書くこと」は27.5%と他の領域を大きく下回っており，音声でやり取りできる英語を含めて，求められた英語を正確に書くことに課題が見られます。
- 「選択式」では高い正答率を示している一方，「短答式」は10.8%と低く，基礎的な語句や文について正確に書く力が十分に定着していないことが分かります。「記述式」は43.0%であり，全体として一定の書く力は身に付いているものの，中位層及び下位層の生徒が正確に書くことができないことに課題が見られます。

中学校第2学年【英語】

(1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	【参考】中1	中2
	知識・技能	58.9 %	3.6 / 9問 (39.6 %)
	思考・判断・表現	62.4 %	4.5 / 9問 (50.1 %)
	全 体	10.9 / 18問 (60.5 %) スコア 500	8.1 / 18問 (44.8 %) スコア 529

(2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布

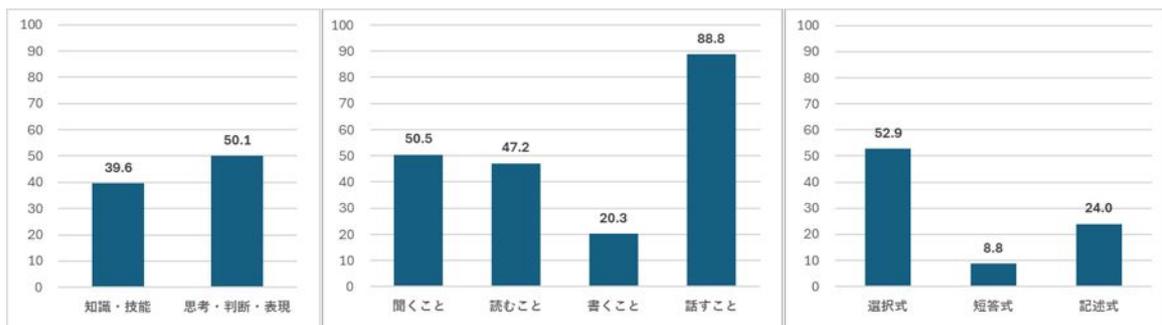


	D層	C層	B層	A層
県分布	0~4問 (15.8%)	5~7問 (34.1%)	8~9問 (18.7%)	10~18問 (31.5%)
自校分布	0~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~18問 (. %)

	県	自校
中央値	8.0	
標準偏差	3.6	

(3) 平均正答率（観点別、領域別、問題形式別）

中学校 第2学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	18	44.8	
観点	知識・技能	9	39.6	
	思考・判断・表現	9	50.1	
領域	聞くこと	7	50.5	
	読むこと	6	47.2	
	書くこと	4	20.3	
	話すこと	1	88.8	
問題形式	選択式	14	52.9	
	短答式	2	8.8	
	記述式	2	24.0	



- 中学校第2学年英語の全体正答率は44.8%（8.1／18問）であり、第1学年と比べると全体的な学習内容の定着に課題が見られます。観点別では、「知識・技能」が39.6%、「思考・判断・表現」が50.1%となっており、基礎的な語彙・文法の定着が十分でないことが、正答率に影響していると考えられます。
- 各学力層の分布状況を見ると、中央値は8問（全18問）で、多くの生徒が一定の基準を超えていない状況です。標準偏差は3.6で、第1学年よりやや大きく、学力差が拡大しつつある傾向が見られます。
- 領域別に見ると、「話すこと」は88.8%と非常に高く、やり取りをする力については、ある程度身に付いていると言えます。「聞くこと」「読むこと」は5割前後にとどまり、必要な情報を取り出したり、要点を捉えたりする力に課題が見られます。「書くこと」は20.3%と他の領域を大きく下回っており、学習した語彙・文法を用いて自分の考えを英文として表現する力が十分に育成されていないことが分かります。
- 「選択式」では一定の正答率を示していますが、「短答式」は8.8%と極めて低く、語句や文を正確に書く力が定着していないことが分かります。また、「記述式」も24.0%にとどまり、文の構成や語順を意識して、まとまりのある英文を書くことに困難さを感じている生徒が多いと考えられます。

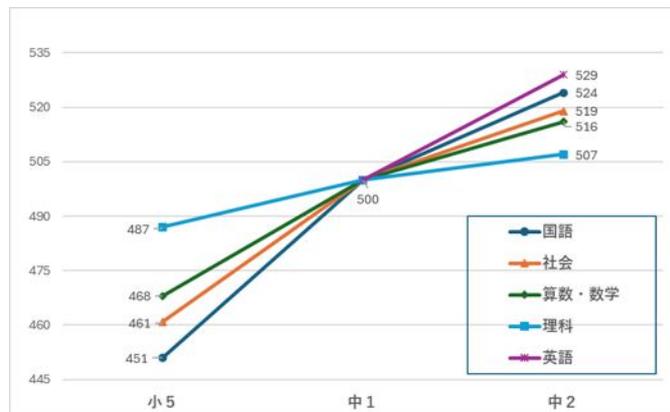
コラム①: 調査結果をスコア化するのはどうしてですか?

～予備調査を活用した経年比較(同一集団による比較)～

- 令和7年度から、調査結果をスコアで示した資料が表示されるようになりました。

一般に、学年が上がるにつれて、より難度の高い内容を学習するため、スコアも高くなります。スコアが上昇していれば、学力が伸びたと解釈することができます。

- 今回の調査結果から、中学2年は、中学1年の結果と比べて、各教科、グラフのような伸びが見られました。一番伸びが見られた教科は英語(29ポイント分)で、次に、国語、社会、数学、理科の順となりました。



※ スコアは、小学5年、中学1年、中学2年の学力調査の結果を、同じ軸上の値として相互比較できるようにしたもの。
 ※ 中1のスコアの平均が500、標準偏差が100となるように、軸の目盛りを定めたもの。

- 調査結果のスコア化について

経年比較の資料では、異なる学年・年度の調査結果を比較するために、11月実施の予備調査を基に受検者個人の結果がスコア化されています。

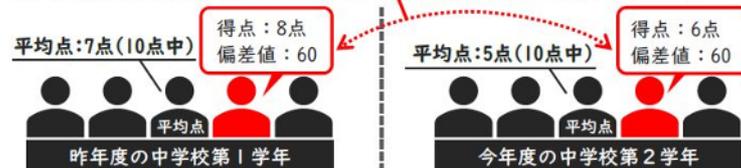
予備調査で異なる学年の受検者に同じ問題を実施し、学年間の学力差(進級により学年全体でどの程度学力が伸びるかの傾向)を推定しました。中学1年を基準に、推定した学力差を各学年の平均スコアへ反映しています。この平均スコアから個人のスコアを導き出して、異なる調査の結果を共通の尺度上に揃えています。

得点や偏差値で個人の[学力の伸び]を比べる場合

得点…問題の内容や難易度に左右される為、複数の調査を同じ尺度で比較できない

偏差値…調査ごとの受検者内での相対的な位置を示す値であるため、受検者全体の学力変化に埋もれてしまい個人の[学力の伸び]を捉えにくい

偏差値はその時々の受検者全体の学力レベルに影響される → 経年比較に不向き



スコアで個人の[学力の伸び]を比べる場合

スコア…学年間の学力差を反映した平均値に合わせて個人の値を算出するので、同じ尺度上で結果を比較して、個人の[学力の伸び]を捉えられる

学年間の学力差を反映し、各学年の個人スコアを同じ尺度上に揃える → 経年比較ができる



コラム②:「CBTならではの問題」とはどのような問題ですか？

今年度の学力調査では、紙による学力調査ではできない、コンピュータを使うからこそ実現できる形式の問題を出題しています。単に画面に選択肢を表示するだけでなく、デジタルならではの操作や表現を含む特徴的な問題を紹介します。

〈国語〉 中学2年「動画による出題」

【古文】に、——線部「夢」とありますが、次の動画は「夢」という漢字を行書で書いたものです。この動画から分かる、楷書で書くときの違いを述べたものとして適切でないものを、あとの選択肢から一つ選びなさい。



「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」に関する問題

〈社会〉 中学2年「動画による出題」

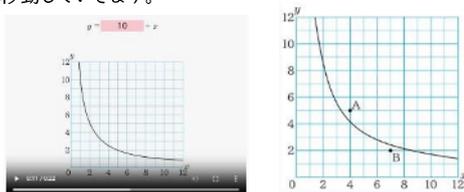
みゆきさんは、調査の一環として、地域の様子を撮影しました。次の動画の撮影地点として適切なものを、地図1の1から4までの中から1つ選びなさい。



地形図の読み取りについて、動画と地形図の内容を関連付けて考察し、撮影地点を特定する問題

〈算数・数学〉 中学1年「動画による出題」

y が x に反比例するとき、この関係を式で表すと、 $y = (\text{決まった数}) \div x$ となります。次の動画を見ると、この式の「決まった数」をだんだん大きくすると、グラフは右上の方向に移動していきます。



グラフの「決まった数」として適切なものを選択肢から選びなさい

動画により反比例のグラフの変化を提示し、比例定数とグラフの関係を視覚的に捉えて考察できるようにした問題

〈理科〉 中学2年「ドラッグ&ドロップによる出題」

水の電気分解が起こった化学変化はどのように表すことができますか。水素原子を●、酸素原子を○と表すものとして、下の【選択パネル】から必要なモデルを選び、空らんにあてはめて化学変化を表しなさい。

【水の電気分解】

空らん1 空らん2 → 空らん3 空らん4 + 空らん5

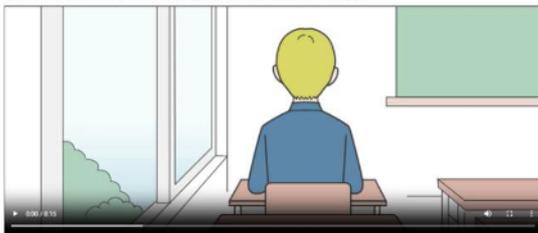
【選択パネル】

●	●●	●●●●	○	○○	○○○○
○○	●○	●●○○	●○○○	○○●●	○○●●

水の電気分解を表す式について、画面上でドラッグ&ドロップ形式でモデルを並びかえて完成させる問題

〈英語〉 中学1年「アニメーションによる出題」

この問題は動画を見て答える問題です。世界はありません。あなたは、授業が始まるので答えるところです。机の席には留学生のMさんが座っています。動画を観て、あなたとMさんとのやり取りにある最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。



自分の前に座っているクラスメートがえんぴつを床に落としてしまうアニメーションを見て、その後自分が伝える英語を答える問題

コンピュータを用いた問題では、ドラッグ操作や情報の整理・再構成などを通して、思考の過程そのものを問うことができます。ICTを効果的に活用することで、結果だけでなく過程や考え方を可視化でき、日頃の授業においても、試行錯誤や判断の過程を重視した学習の充実につながります。